

港区基本計画 赤坂地区版計画書 策定に向けた提言書



赤坂・青山地区タウンミーティング
赤坂地区版計画推進分科会

令和5年3月

はじめに

本書は、令和6年度からの「港区基本計画・赤坂地区版計画書」策定に向け、私たち、区民参画組織「赤坂・青山地区タウンミーティング赤坂地区版計画推進分科会」が、赤坂地区の現状や課題及びその解決の方策等について議論し、その結果を区への「提言」として取りまとめたものです。

提言にあたり、18名のメンバーで約1年間、計11回の分科会の開催を重ね、検討を行いました。多世代・多様なメンバーが参加した活発な意見交換の結果、大変有意義な会になったと考えております。

提言は、「かがやくまち」、「にぎわうまち」、「はぐくむまち」の3分野に分けてそれぞれ議論を行い、出された意見を仕分け、絞り込み作業を行い、その結果を現行の赤坂地区版計画書の施策の体系に沿って示しております（P.3～21）。なお、分科会で出された意見は「各分野における提言の最後のページ（P.9・15・21）」に掲載しております。計画書の策定に当たりこの意見も十分に活用していただくようお願い申し上げます。

また、分野ごとに議論した中で、すべての分野を横断して出された課題については、「実現をめざして（P.22）」という形で、掲載しています。これらは、これまで議論してきた項目に共通する課題であり、区民の抱える喫緊の課題だにご理解いただき、計画書の策定に取り組んでいただければと思います。

今回の提言が、現在、そして今後の赤坂・青山地域の課題解決に向けた政策および地域事業の発展に寄与することを願っております。

赤坂・青山地区タウンミーティング
赤坂地区版計画推進分科会
座長 井川 博英

目次

第1章 提言書の概要	1
1 提言の目的	2
2 提言作成までの流れ	2
第2章 各分野における提言	3
1 かがやくまち分野における提言	4
(1) かがやくまち分野における分科会の議論の整理	4
(2) 「かがやくまち」分野 提言のまとめ	6
提言1 安心して移動できる歩行空間の構築	6
提言2 生活環境に対する区民意識の向上	7
提言3 防犯・防災対策の充実	8
(3) かがやくまちの議論の整理	9
2 にぎわうまち分野における提言	10
(1) にぎわうまち分野における分科会の議論の整理	10
(2) 「にぎわうまち」分野 提言のまとめ	12
提言1 地域の魅力を活用した情報発信を行う	12
提言2 住民と地域団体等が交流できる場や機会を充実する	13
提言3 多様な区民の地域参加を促進する	14
(3) にぎわうまちの議論の整理	15
3 はぐくむまち分野における提言	16
(1) はぐくむまち分野における分科会の議論の整理	16
(2) 「はぐくむまち」分野 提言のまとめ	18
提言1 多様な主体が連携・協働した子どもの学びの機会の充実	18
提言2 多世代間の交流のさらなる充実	19
提言3 地域の資源を活用した交流の場や機会を増やしていく	20
(3) はぐくむまちの議論の整理	21
4 実現をめざして	22
提言1 効果的な情報発信	22
提言2 役割分担の明確化	22

第3章 分科会の総括.....	23
1 3分野の提言の総括.....	24
資料編.....	25
1 赤坂地区版計画推進分科会の概要.....	26
2 開催経過.....	27
3 勉強会.....	28
(1) 開催概要.....	28
(2) 講演内容の概要.....	28
(3) 質疑応答.....	29
4 赤坂地区総合支所の取組の現状（会議配布資料）.....	32
5 メンバーからの感想（提出のあった方のみ、50音順で掲載）.....	46

第1章

提言書の概要

1 提言の目的

本提言は、「港区基本計画・赤坂地区版計画書」の改定にあたり、地域住民の視点から事業を検証・評価し、地域住民の意向や地域の課題・ニーズに、より応えることのできる内容に発展させるためのものです。

提言の策定にあたっては、公募および無作為抽出により申し込まれた赤坂地区内の在住・在勤者等が赤坂地区版計画推進分科会のメンバーとなり、意見を交わしてきました。赤坂地区総合支所においては、本提言を地域住民の意向ととらえ、赤坂地区版計画書の策定において参照していくことが望まれます。

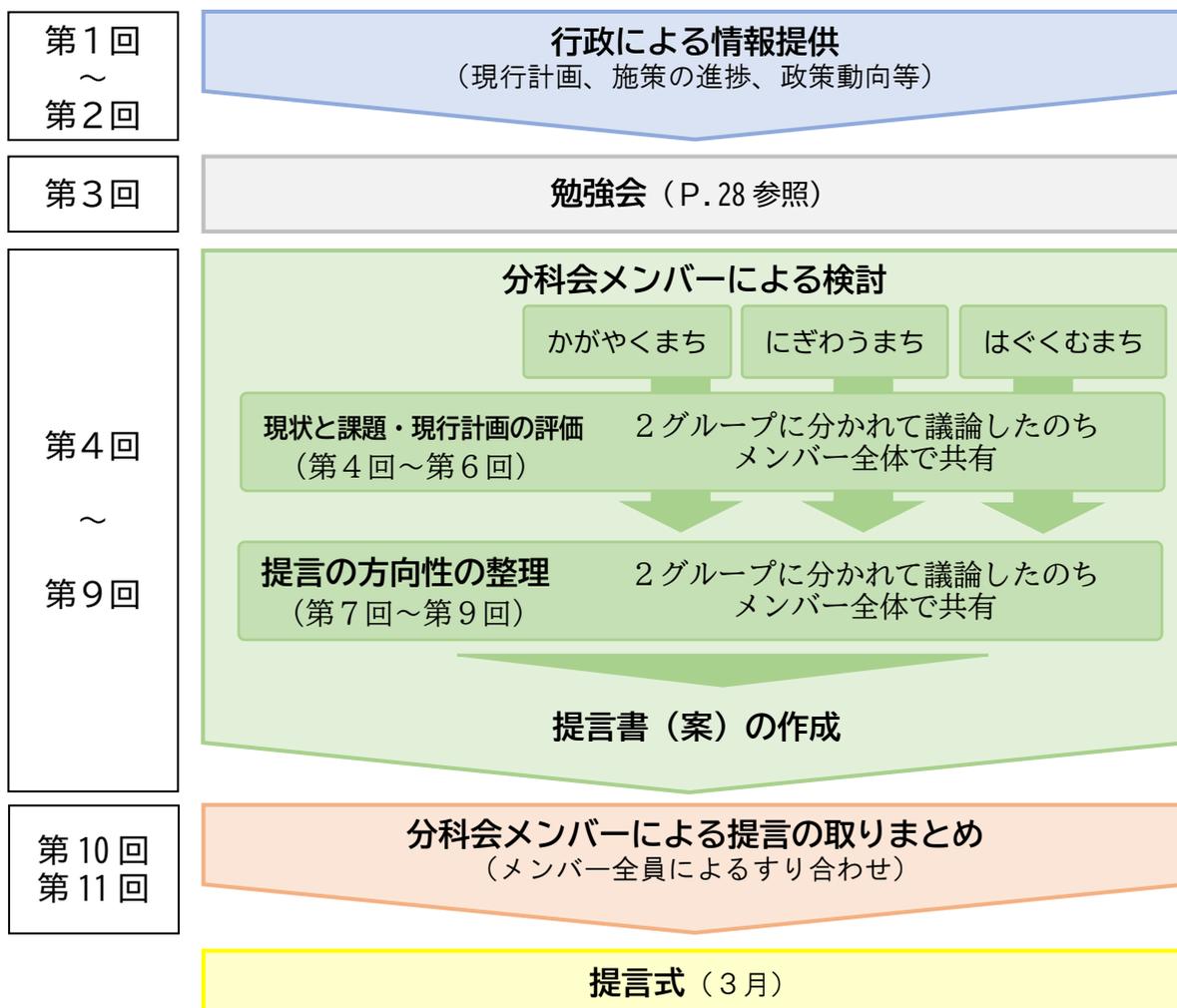
2 提言作成までの流れ

第1回、第2回分科会では事務局からオリエンテーションとして、現行計画の概要や施策の進捗状況、政策動向等について説明が行われました。

第3回分科会では学識者を招いて勉強会を開催しました。

第4回から第9回分科会では2グループに分かれて現行計画の「かがやくまち」、「にぎわうまち」、「はぐくむまち」の3分野を軸に現状と課題、提言の方向性について現行計画の評価を含めた議論を行いました。

第10回、第11回分科会では第9回分科会までの議論をまとめた提言書（案）を元に議論を行いました。



第2章

各分野における提言

1 かがやくまち分野における提言

(1) かがやくまち分野における分科会の議論の整理

看板

【課題】

- 看板パトロールでの成果が不透明
- 看板が必要な理由が分析されていない
- 貼り紙、ポスターが逆に景観をそこねているケースがある
- 合法の置き看板との差別化

【解決のためのアイデア】

- ▶業者が営業できるように置き看板の代わりになるものを検討する
- ▶看板設置のルール作り
- ▶駅の出口に店の名前が分かるような大きな地図を設置する
- ▶店が入っているビル内に看板を置く
- ▶使用しないときはビルに折りたためる看板
- ▶公道における貼り紙にはデザインレギュレーション※1を設定する

歩道・道路、駐輪場、自転車

【課題】

- 狭く、でこぼこで歩きにくい歩道など、みんなに優しい道路
- スマホのながら歩きで交差点に入り危険
- 電動キックボードが増加し、ルールが守られていない
- 配達サービスの自転車マナーが悪い
- コロナ後の放置自転車に対する状況が把握されていない
- 交通量の多い通学路に信号がない

【解決のためのアイデア】

- ▶子ども目線での通学路危険箇所の再点検
- ▶バリアフリーマップ作製
- ▶IT・スマホを活用した区への報告サイト作成
- ▶交通ルールを周知

環境美化、緑、タバコ

【課題】

- 温暖化の進行
- タバコのポイ捨て
- 公園に花が少なく、薄暗い
- 飲食店の出すゴミにカラスが集まり不衛生
- 深夜に駐車場へ集まり酒盛りが行われている
- アドプト・プログラム※2がどれだけうまくいっているか見えにくい

【解決のためのアイデア】

- ▶表参道のようなゴミ箱を青山通りに設置
- ▶「みなとタバコルール」の周知
- ▶公園を安全に使えるように管理
- ▶小・中学校でタバコの教育

防犯、防災

【課題】

- 住宅地が暗い
- 防災ワークショップの効果が定量化されていない
- 地域の防災の手順が周知されていない
- 防災における公衆電話ボックスの必要性についてもっと分かり易く周知すべき

【解決のためのアイデア】

- ▶公共施設の街灯を夜間も点ける
- ▶防災の観点から公衆電話をコンビニに設置
- ▶居住者と来訪者の異なる意義を鑑み、ルール発信の方法を検討する

※1 デザインレギュレーション：デザインを行ううえでの規則となるもの、資料、マニュアル等

提言1 安心して移動できる歩行空間の構築

区民のだれもが安心して街中を移動することができるよう、環境を改善する取組を進めていくことを提言します。

提言の概要

- ①歩道の環境改善に向けた取組を引き続き強化していく
- ②街中のゴミを減らす取組を推進していく
- ③看板を置く場所をルール化するなど移動の妨げにならないような工夫を行う

提言2 生活環境に対する区民意識の向上

区、区民、事業者が連携・協働し、街中の緑化や環境美化の取組を推進していくことを提言します。また、地域の子どもに向けた環境教育にも取り組み、意識を向上していく取組を推進していくことを提言します。

提言の概要

- ①生活環境に対する区民の意識向上を推進していく
- ②環境教育を推進していく
- ③再開発事業者と住民のコミュニケーションの機会を充実していく

提言3 防犯・防災対策の充実

区民のだれもが安全に安心して過ごすことができるよう防犯・防災対策をより一層充実していくことを提言します。

提言の概要

- ①まちぐるみで防犯・防災に取り組んでいく
- ②防犯・防災に対する区民の意識向上を推進していく
- ③多様な主体が連携・協働した防犯・防災の取組を推進していく

※2 アドプト・プログラム：港区と地域住民や区内の在勤者等で構成する団体や個人がお互いに協力し、道路、公園等の緑化活動や清掃、日常の維持管理活動を行うことで道路、公園等への愛着心を深め、利用者のマナー向上と清潔で快適な街づくりを推進する取組。

(2) 「かがやくまち」分野 提言のまとめ

提言1 安心して移動できる歩行空間の構築

区民のだれもが安心して街中を移動することができるよう、環境を改善する取組を進めていくことを提言します。

提言の概要

① 歩道の環境改善に向けた取組を引き続き強化していく	区	区民	地域団体	事業者
② 街中のゴミを減らす取組を推進していく	区	区民	地域団体	事業者
③ 看板を置く場所をルール化するなど移動の妨げにならないような工夫を行う	区	区民	地域団体	事業者

区 港区(行政)
 区民 赤坂・青山地域の在住、在勤、在学者
 地域団体 町会・自治会等の地域で活動する団体
 事業者 民間事業者

提言に対する取組案

取組案 安全で快適な歩行空間の確保

安全で快適な歩行空間や避難路を確保するため、企業の協力も得ながら道路のバリアフリー化を進めるとともに、駐輪場の整備等を推進して放置自転車の減少に努める。

取組案 地域の環境美化を推進する

地域の環境美化を推進するため、みなとタバコルールの周知に加え、団体・事業者と協働して大通りや繁華街を中心に街並みに合ったごみ箱を設置する。

地域事業に対する取組案

移動の妨げにならないような看板設置の検討

違法置き看板ゼロ作戦（地域事業）

現行計画における取組

地域の団体と協働して、人の往来が特に多い駅前、繁華街を中心に、公道上に置き看板を「出しづらい」意識・雰囲気をつくることを目的としたパトロールを実施。

[改善案]

歩道の環境改善を促進するため、従来の出させない取組に加え、看板のデザインレギュレーションの設定や、駅の出入口への地図型看板やデジタル看板の設置など、安全に設置できる看板などのルールを定める。

提言2 生活環境に対する区民意識の向上

区、区民、事業者が連携・協働し、街中の緑化や環境美化の取組を推進していくことを提言します。また、地域の子どもに向けた環境教育にも取り組み、意識を向上していく取組を推進していくことを提言します。

提言の概要

① 生活環境に対する区民の意識向上を推進していく



② 環境教育を推進していく



③ 再開発事業者と住民のコミュニケーションの機会を充実していく



区 港区(行政)

区民 赤坂・青山地域の在住、在勤、在学者

地域団体 町会・自治会等の地域で活動する団体

事業者 民間事業者

提言に対する取組案

取組案 生活環境に対する区民の意識向上

生活環境に対する区民の意識向上を推進するため、IT・スマホを活用し、破損箇所の補修依頼や要望などを簡易にできる仕組みをつくる等、住民と区の接点を増やす。

取組案 環境教育を推進していく

環境教育を推進するため、実際にまちを歩いてどういったところに課題があるのかを体験しながら抽出し、改善案を考え、まちを良くしていくほか、赤坂・青山地域の豊かな緑の環境を保全するため、子どもたちが自由に遊べる広場等を維持する。

取組案 再開発事業者と住民のコミュニケーションの機会を促進させる

再開発事業者と住民のコミュニケーションの機会を充実していくため、花壇や植栽へのアドプト・プログラムを充実し、まちづくりへの意識向上を図り、再開発事業者と区民を橋渡す取組を行う。

提言3 防犯・防災対策の充実

区民のだれもが安全に安心して過ごすことができるよう防犯・防災対策をより一層充実していくことを提言します。

提言の概要

① まちぐるみで防犯・防災に取り組んでいく	区	区民	地域 団体	事業者
② 防犯・防災に対する区民の意識向上を推進していく	区	区民	地域 団体	事業者
③ 多様な主体が連携・協働した防犯・防災の取組を推進していく	区	区民	地域 団体	事業者

港区(行政)
 赤坂・青山地域の在住、在勤、在学者
 町会・自治会等の地域で活動する団体
 民間事業者

提言に対する取組案

取組案 まちぐるみの防災イベントを開催する

地域の防災力を向上し、区民一人ひとりの意識向上を推進するため、町会・自治会やマンション管理組合等の関係団体と協働して誰でも参加できる体験型の防災イベントを開催する。

地域事業に対する取組案

防災に対する区民の意識向上を推進していく

多様な主体が連携・協働した防災の取組を推進していく

赤坂・青山みんなて学ぼうさい事業(地域事業)

現行計画における取組

次世代の地域を担う子どもたちや子育て世代、集合住宅住民等のカテゴリー別に防災知識の習得に向けた講座や意見交換を図るワークショップを実施し、若年層を中心とした防災力の向上を図ります。

[改善案]

多様な主体が連携・協働し、防災に対する区民の意識向上を推進するため、地域防災協議会や帰宅困難者対策協議会など、災害が発生したときに行政の主体から離れて独自に地域で活動する団体を講師として招き、子育て世代や集合住宅住民に対して災害時に地域がどうなるか知ってもらう定期的な機会をもうける。

(3) かがやくまちの議論の整理

A

グループでの主な議論

- ・実際にまちを歩いてどういったところに課題があるのかを体験しながら抽出し、改善案を考え、まちを良くしていくことが重要ではないか？
- ・看板への対策は、店舗を規制するよりもテナントビルのオーナー等に周知して、新しく看板を置く場所をつくる等の働きかけができないかという一つ上の段階で議論していくとよいのではないか？
- ・再開発で住環境が大きく変わる中、事業者から住民への説明、周知が十分なものとなっていない。再開発事業者とのコミュニケーションを充実させる案として、街路樹を区と住民が育ててまちづくりの意識を向上させ、住民がまちを守ることで、赤坂・青山で新しい再開発をする事業者へ働きかけていくというアイディアもあるだろう。
- ・住民と事業者がまちぐるみで防災の取組をすることで、防災意識を向上させて改善できるだろう。

B

グループでの主な議論

- ・たばこをやめろというのではなく、たばこの危険性を教育した方がよいのではないかという意見が出た。
- ・ごみに関しては、商店街や住宅街によりだいぶ状況が異なる。商店街に関しては商店会でルールを作ってゴミ箱を設置してもらおう。また、大通りにゴミ箱を設置してはどうかという意見も出た。
- ・防犯では、港区が住みやすいまちというイメージづけができるように、夜間パトロールをしたり、現在暗いところを明るくしたりしてはどうかという案が出た。

総括的な意見

- ・安心して住めるまちをつくるということなので、今は本当に安心して住めるのだろうか、というあたりにもう少し焦点をあてて、それを訴えていく提言ができるとよいと感じた。
- ・住民参加型のまちづくりを実現するためには、開発計画等の情報をできる限り事前に、開発計画の対象となる住民に広く周知していくことが重要だと感じた。
- ・住民が直接事業者に働きかけることはなかなか難しいが、大きな再開発があるエリアなので、事業者に緑化を推進してもらおう。そのためには、区に入っただけが必要があるという意見があった。住民と事業者には接点がないので、区がそこを取り持つことがよいのではないかという意見もあった。
- ・住みやすいまちのイメージを区、住民、事業者が一緒になって作り上げていくことが大切だと感じた。

2 にぎわうまち分野における提言

(1) にぎわうまち分野における分科会の議論の整理

地域への関心喚起

【課題】

- まちづくりに参加する住民が固定化している
- 中学、高校、大学や企業の活動が知られていない
- 住みやすい静かな環境を好む住民もいる。人混みではなく活気のあるまちに
- 連携自治体とのつながりの活動の見える化

【解決のためのアイデア】

- ▶まちづくりのような会議への参加ではなく、フリーで発信できる機会をつくる
- ▶赤坂地区内での企業が行っているイベントや取組の連携
- ▶地域づくりに関心を持ってもらえるようなオープンカフェなどのイベントを開く

赤坂・青山の魅力を発信する手段

【課題】

- 赤坂親善大使の活躍が不十分
- 赤坂青山イメージソング「My Home Town」を聞く機会がない
- 地域の魅力が伝わらないと守る努力につながらない
- 新規転入者の赤坂のイメージを把握できていない

【解決のためのアイデア】

- ▶活動報告ではなく、イベント告知を通じて周知
- ▶情報と同時にたどり着く動線も案内する
- ▶楽しそうな写真を撮って発信する
- ▶地域の魅力をより知ってもらい、広めていく活動を行う
- ▶企業や区民等で情報を発信する中間組織をつくる

町会・地域コミュニティ

【課題】

- 町会の区分けがよくわからない
- 町会の意義を知る機会が無い
- マンション住民と町会の交流がない
- 住む人と通う人の交流がない
- 大型商業施設が出来て個人商店が減少し、コミュニケーションが不足している
- 町会等、コミュニティの担い手不足

【解決のためのアイデア】

- ▶町会の区分け周知
- ▶月に一度程度、町会のオープンカフェを行う
- ▶食を通じたコミュニケーションを飲食店と連携して行う
- ▶地域活動のICT^{※3}化

外国人

【課題】

- 外国人が地域に溶け込むためにどうすれば？
- 外国人が減って寂しい
- 日本語の理解度が不明
- お祭りに参加できていないなど、地域に溶け込めていない

【解決のためのアイデア】

- ▶積極的な外国人を集めた行政主体の会議体をつくる
- ▶国際交流協会が主催するイベントに参加する
- ▶国、大使館別にお祭り参加者を募集する
- ▶外国人が参加しやすいイベント・活動を企画する

※3 ICT：情報通信技術を活用したコミュニケーション

提言1 地域の魅力を活用した情報発信を行う

赤坂・青山地域の魅力に関する情報発信を強化していくことで、地域への関心を喚起するきっかけを一層充実していくことを提言します。

提言の概要

- ①若い世代を巻き込んで地域の魅力にふれる機会を充実する
- ②魅力を感じることができる情報発信の手段を充実していく
- ③地域の魅力を再認識する取組を充実する

提言2 住民と地域団体等が交流できる場や機会を充実する

住民と地域団体等との接点を増やすための場や機会を充実するとともに、SNS等を活用して様々な活動を地域で周知していくことを提言します。また、交流にあたっては多様な区民の参加を促すよう、テーマ性のある取組を検討することを提言します。

提言の概要

- ①住民が地域における活動を知る機会を充実する
- ②多様な主体と連携し、情報発信体制を強化する
- ③飲食店との連携などテーマ性のある、多様な区民の交流の取組をふやしていく

提言3 多様な区民の地域参加を促進する

年齢や性別、国籍等にかかわらずだれもが気軽に地域参加できる場や機会を充実していくことを提言します。

提言の概要

- ①区民のだれもが気軽に参加できるイベントを充実していく
- ②地域参加を考える外国人住民が気軽に地域の活動等に参加できる場や機会を充実していく
- ③多様な手段で地域参加につながる情報を発信していく

(2) 「にぎわうまち」分野 提言のまとめ

提言1 地域の魅力を活用した情報発信を行う

赤坂・青山地域の魅力に関する情報発信を強化していくことで、地域への関心を喚起するきっかけを一層充実していくことを提言します。

提言の概要

① 若い世代を巻き込んで地域の魅力にふれる機会を充実する	区	区民	地域団体	事業者
② 魅力を感じることができる情報発信の手段を充実していく	区	区民	地域団体	事業者
③ 地域の魅力を再認識する取組を充実する	区	区民	地域団体	事業者

区 港区（行政）
区民 赤坂・青山地域の在住、在勤、在学者
地域団体 町会・自治会等の地域で活動する団体
事業者 民間事業者

提言に対する取組案

地域事業に対する取組案

地域の魅力を感じることの出来る情報発信を行う
赤坂・青山魅力“知伝活”事業（地域事業）

現行計画における取組

区民自らが講座やワークショップをとおして地域の魅力を「知り」、ICTを「活用」した効果的な情報発信の方法を検討し、区民目線の新たな地域の魅力を「伝える」ことで、地域への関心を喚起し、愛着を醸成します。

[改善案]

地域に対する愛着を育むため、動画作成だけでなく、ICTを活用した情報発信を強化し、区民目線の地域の魅力発信を強化する。

地域事業に対する取組案

地域の魅力を再認識する取組の充実
赤坂親善大使 魅力発信プロジェクト（地域事業）

現行計画における取組

赤坂・青山のマスコットキャラクター「赤坂親善大使」が地域で行われる行事やイベントに出席するとともに、SNSをはじめとした様々な手法により効果的に情報発信を行い、地域の活性化を図ります。

[改善案]

地域の魅力を向上するため、コロナで停止・中止となってきた地域のイベントに出演し、集客やにぎわいに寄与するとともに、大使のFacebookアカウントを通じた出演予告等により地域のイベントを実施前に周知するなど、情報発信を強化する。

提言2 住民と地域団体等が交流できる場や機会を充実する

住民と地域団体等との接点を増やすための場や機会を充実するとともに、SNS等を活用して様々な活動を地域で周知していくことを提言します。また、交流にあたっては多様な区民の参加を促すよう、テーマ性のある取組を検討することを提言します。

提言の概要

- | | |
|---------------------------------------|---|
| ① 住民が地域における活動を知る機会を充実する |   |
| ② 多様な主体と連携し、情報発信体制を強化する |     |
| ③ 飲食店との連携などテーマ性のある、多様な区民の交流の取組をふやしていく |     |
-  港区(行政)  赤坂・青山地域の在住、在勤、在学者  町会・自治会等の地域で活動する団体  民間事業者

提言に対する取組案

取組案 地域に参加したくなるイベント等のテーマを検討する

区民が地域活動を知るとともに、普段の暮らしを豊かなものにするために誰でも参加できるイベントを開催し、地域のコミュニティを醸成していく。

取組案 町会のICT化など、情報発信体制を強化する

町会の情報発信強化のため、団体・事業者と協働して町会向けのICTワークショップを開催する。

地域事業に対する取組案

住民と地域団体等との接点を増やすためのイベントを企画する 赤坂でつながり隊(地域事業)

現行計画における取組

町会・自治会、地域活動団体等の“つながり(コミュニティ)”を深め、情報や機会、資源を分かち合える交流イベントを実施します。

[改善案]

住民と地域団体等との接点を増やすため、イベントとして実施している交流会ではなく、一つのテーマで多くの団体が参加可能なイベントを企画し、団体・コミュニティの交流だけでなく、団体に所属しない区民も交流を図れるようなイベントとする。

提言3 多様な区民の地域参加を促進する

年齢や性別、国籍等にかかわらずだれもが気軽に地域参加できる場や機会を充実していくことを提言します。

提言の概要

- | | | | | |
|--|---|----|------|-----|
| ① 区民のだれもが気軽に参加できるイベントを充実していく | 区 | 区民 | 地域団体 | 事業者 |
| ② 地域参加を考える外国人住民が気軽に地域の活動等に参加できる場や機会を充実していく | 区 | 区民 | 地域団体 | |
| ③ 多様な手段で地域参加につながる情報を発信していく | 区 | 区民 | 地域団体 | 事業者 |

区 港区(行政)
 区民 赤坂・青山地域の在住、在勤、在学者
 地域団体 町会・自治会等の地域で活動する団体
 事業者 民間事業者

提言に対する取組案

地域事業に対する取組案

**外国人が地域に参加しやすいようイベントを企画するとともに、
情報発信を行い、機会の充実につなげる**

赤坂・青山Meet upプロジェクト(地域事業)

現行計画における取組

日本人と外国人が地域の魅力や課題について一緒に考え、交流できる機会を創出し、地域への参画を促します。

[改善案]

外国人が地域で活動するきっかけをつくるため、事業に参加している日本人と外国人の交流創出だけでなく、お祭りの講座や実際に地域のお祭りなどへ参加するようつなげるとともに、多くの外国人が参加可能となるような情報発信の手段について検討を行う。

(3) にぎわうまちの議論の整理

A

グループでの主な議論

- ・区民の参加という観点では、オープンカフェをする、イベントを開く、落ち葉拾い等のボランティア等、区民の方がもう少し気軽に参加できるイベントをやっていくということが一つある。
- ・発信については区に担っていただいているが、企業や中間組織、実際に住んでいる区民の方に発信を任せることができないか。
- ・地域を巻き込んで、地域でできる人に任せて、より多くの人を巻き込めるような情報発信体制を構築できると良い。

B

グループでの主な議論

- ・青山と赤坂はイメージが違うが、魅力がない訳ではない。実際に、人がものすごく来ている。それをどう皆さんに知ってもらい、伝えて、活用できるのか。そこが一番重要。
- ・町会も発信して知ってもらおう。そして、伝えて、活用する。同じ形でやっていけば良いのではないか。

総括的な意見

- ・どうやって多くの人を巻き込むのかという話と、発信を行う中心的なチームをつくり、そこから派生した何かをやるチームということで、各チームを中心にまわす方法を取るのが良いのではないか。
- ・わざわざ情報発信をしなくても、興味を持っていただけるような特徴を持った場所ができると良い。
- ・我々らしさをよく捉えたときに、ここまで外国人が多くいるまちは他にはない。外国人には面白い人が多く、そうした人達とコミュニケーションが取れると、より我々も楽しいし、その人たちにも喜んでもらえる。

3 はぐくむまち分野における提言

(1) はぐくむまち分野における分科会の議論の整理

教育、学び、健全育成

[課題]

- よちよち子育て交流会の周知が足りない
- 外で遊ぶ子どもを見かけなくなった
- 赤坂青山共育情報局の活動実態が見えない

[解決のためのアイデア]

- ▶民間企業と協力して子育て情報発信プラットフォーム運営
- ▶地域のIT企業による子ども向けのスマホ勉強会を実施
- ▶日常生活にも組み込んだ地域間交流の実施
- ▶保育園や幼稚園、学童クラブ、児童館など縦割りでない、利用者が横でつながる仕組み作り

高齢者

[課題]

- ふれあいサロン事業の周知が足りない
- 高齢者が外に出るモチベーション作りが必要
- 高齢者のIT ネットワークの活用不足
- 高齢者施設のサービス情報の入手が難しい

[解決のためのアイデア]

- ▶外出を伴わない高齢者交流機会の充実
- ▶地域のIT企業による高齢者のスマホ勉強会を実施
- ▶ふれあいサロンやいきいきプラザによる高齢者向けレターの発行

多世代間の交流

[課題]

- 多世代交流に参加している世代構成が把握されていない
- 日常生活の中での交流を増やす必要がある
- 多様な人や文化の共存など継続したコミュニケーションの場が少ない

[解決のためのアイデア]

- ▶多世代間交流の回数を増やす
- ▶世代を越えた学びの場を提案
- ▶若い人(子ども)と高齢者の話し合う場所
- ▶交流会の案内をもっと広く配布
- ▶趣味を軸とした多世代交流
- ▶ラジオ体操のような、ゆるやかで継続的な集まる場を創出
- ▶子どもたちを高齢者の交流イベントの運営に

地域資源を活用したイベント等

[課題]

- 世代・地域を越えたスポーツイベント、伝統行事などが少ない
- コロナでお祭りなど全て中止となってしまった
- 地域内交流の場・イベントが少ない

[解決のためのアイデア]

- ▶善光寺の夏祭りのような地域住民だけでなく開かれたイベントの充実
- ▶地域の子どもに向けた野外イベントを月一回程度実施
- ▶商店街や民間組織などと協働して民間企業やお店を交流の場所に使う
- ▶空いている店舗を活用し、子どもや高齢者が集える場所を充実する

提言1 多様な主体が連携・協働した子どもの学びの機会の充実

保育園、幼稚園、児童館等の垣根を越えて子どもたちの学びにつながる場や機会を充実していくことを提言します。

提言の概要

- ①親世代が横につながる機会を充実していく
- ②農業など、日頃子どもたちが接点の少ないテーマを学ぶ機会や子どもの学びにつながる場を充実していく
- ③他自治体等と連携して地域間交流を促進していく

提言2 多世代間の交流のさらなる充実

区民の誰もが楽しむことができ、かつ、世代間の交流が継続的に促進する取組を充実していくことを提言します。

提言の概要

- ①年代ごとに区切ることに注力せず、多世代が集うことに重点を置いた取組を充実していく
- ②テーマ性のある、世代間の交流を促進する取組をふやしていく
- ③交流の場や機会を単発で終わらないような工夫を行う

提言3 地域の資源を活用した交流の場や機会を増やしていく

既存の施設等に限らず、地域の中で一時的に利用できる場所なども候補地として、交流の場や機会を増やしていくことを提言します。また、既存の地域のイベントに参加する住民を増やす工夫を行っていくことを提言します。

提言の概要

- ①町会・自治会会館や公園、空きスペース等を活用して交流の場にしていく取組を充実していく
- ②地域のお祭等に新たに参加する地域住民を増やしていく
- ③交流に活用できる地域の資源についての情報を整理する

(2) 「はぐくむまち」分野 提言のまとめ

提言1 多様な主体が連携・協働した子どもの学びの機会の充実

保育園、幼稚園、児童館等の垣根を越えて子どもたちの学びにつながる場や機会を充実していくことを提言します。

提言の概要

① 親世代が横につながる機会を充実していく	区	区民	地域団体	事業者
② 農業など、日頃子どもたちが接点の少ないテーマを学ぶ機会や子どもの学びにつながる場を充実していく	区	区民	地域団体	事業者
③ 他自治体等と連携して地域間交流を促進していく	区	区民	地域団体	事業者

港区(行政)
 赤坂・青山地域の在住、在勤、在学者
 町会・自治会等の地域で活動する団体
 民間事業者

提言に対する取組案

地域事業に対する取組案

親世代が横に繋がる機会の充実

よちよち子育て交流事業（地域事業）

現行計画における取組

子育てに関する相談や情報交換、子育て世代同士の交流の場として、「よちよち子育て交流会」を実施します。

[改善案]

子育てをしている保護者が気軽に交流できる機会を充実するため、父親だけの交流会等テーマ設定を増やす。

地域事業に対する取組案

子どもが普段あまり接点がないテーマでの学びの機会をつくる

赤坂・青山子ども共育事業（地域事業）

現行計画における取組

赤坂青山の地域資源である地域団体、企業等との協働により、小中学生を対象に、「驚き、感動、気づき」を与え、「自ら考え、行動する」機会となる講座を実施します。

[改善案]

子どもたちの学びの機会充実のため、地域団体、企業等と協働し、農業など赤坂青山で行える事業にこだわらずに子ども達が接点のないテーマを取り入れる。

地域事業に対する取組案

他の自治体への関心を喚起するイベント等を企画する

子ども地域間交流事業～離れていても心は一つ！～（地域事業）

現行計画における取組

岐阜県郡上市、和歌山県和歌山市との交流事業を実施します。

[改善案]

地域間交流を促進するため、自治体間交流を日常化できるよう他自治体との連携を強化して交流を促進する。

提言2 多世代間の交流のさらなる充実

区民の誰もが楽しむことができ、かつ、世代間の交流が継続的に促進する取組を充実していくことを提言します。

提言の概要

① 年代ごとに区切ることに注力せず、多世代が集うことに重点を置いた取組を充実していく	区	区民	地域団体	事業者
② テーマ性のある、世代間の交流を促進する取組をふやしていく	区	区民	地域団体	事業者
③ 交流の場や機会を単発で終わらないような工夫を行う	区	区民	地域団体	事業者

区 港区(行政)
 区民 赤坂・青山地域の在住、在勤、在学者
 地域団体 町会・自治会等の地域で活動する団体
 事業者 民間事業者

提言に対する取組案

地域事業に対する取組案

多世代が気軽に集うことができるイベント等のテーマを検討する 赤坂・青山多世代交流促進事業（地域事業）

現行計画における取組

赤坂・青山にある保育園、幼稚園、小・中学校、子ども中高生プラザ、いきいきプラザ、町会・自治会等と連携したイベントを実施します。

[改善案]

参加のハードルを下げ、多世代交流を促進するため、テーマ性のある、皆さんが気軽に参加できるバザーや地域カフェ等のイベントを検討し、多世代が集うことに重点を置いた取組を充実していく。

地域事業に対する取組案

交流が継続的なものになる工夫を行う 赤坂・青山ふれあいサロン事業（地域事業）

現行計画における取組

高齢者が自宅に引きこもりがちにならず気軽に外出し、地域の人々と交流が図れるよう、高齢者のいきがいづくりや交流の場として、「赤坂・青山ふれあいサロン」を実施します。

[改善案]

日頃から地域とのつながりを持ち続けられるようにするために、情報伝達を強化し、ふれあいサロンに参加した高齢者がサロンだけでなく、いきいきプラザなどとそれぞれ行き来し、高齢者等の交流が継続的なものになる工夫を行う。

提言3 地域の資源を活用した交流の場や機会を増やしていく

既存の施設等に限らず、地域の中で一時的に利用できる場所なども候補地として、交流の場や機会を増やしていくことを提言します。また、既存の地域のイベントに参加する住民を増やす工夫を行っていくことを提言します。

提言の概要

① 町会・自治会会館や公園、空きスペース等を活用して交流の場にしていく取組を充実していく	区	区民	地域団体	事業者
② 地域のお祭等に新たに参加する地域住民を増やしていく	区	区民	地域団体	
③ 交流に活用できる地域の資源についての情報を整理する	区	区民	地域団体	事業者

区 港区(行政)
 区民 赤坂・青山地域の在住、在勤、在学者
 地域団体 町会・自治会等の地域で活動する団体
 事業者 民間事業者

提言に対する取組案

取組案 町会・自治会会館や公園、空きスペース等を活用して交流の場や機会をつくる

多世代交流の機会充実のため、いきいきプラザの講座・交流の際に、公園等の空きスペースを効果的に活用し、高齢者が外に出る契機を創出する。

地域事業に対する取組案

地域のお祭り等を活用して、多世代が交流する場を創出する

赤坂・青山多世代交流促進事業(地域事業)

現行計画における取組

赤坂・青山にある保育園、幼稚園、小・中学校、子ども中高生プラザ、いきいきプラザ、町会・自治会等と連携したイベントを実施します。

[改善案]

多世代交流の機会充実のため、多世代交流の場として、盆踊りや地域のお祭り等も対象イベントにするほか、赤坂・青山交流の日をつくる等、交流の機会を創出して効果的に活用する。

(3) はぐくむまちの議論の整理

A

グループでの主な議論

- ・子どもを育てる場所に関しては、区や事業者がもう少し横のつながりを作り、例えば、保育園、幼稚園、児童館等、垣根を越えて子どもたちと親世代が交流できる場をつくると、相談の場も増えるだろうという議論があった。
- ・多世代交流促進事業では、防災、食育等の世代を問わず楽しめるというテーマで単発で終わらずに継続できる取組が必要だという意見が出た。
- ・多世代交流を中心として、皆さんが参加しやすいテーマを決めて、定期的を開催する。そういう仕組みづくりを、区と住民、事業者、団体等、全てまとめてうまく作っていかうという方向性がでた。

B

グループでの主な議論

- ・多世代が交流するために、交流の場を作るという意見が全ての方から出された。
- ・農業体験等、子どもに対して教育し、交流する機会を与えていく。
- ・地域資源の活用については、今使っていない空き店舗や空きスペース、公園等を活用して交流の場にしていく取組を充実していけるとよいという意見もあった。

総括的な意見

- ・多様な人が集まるための場、イベントを行うための場、そういう場所が必要だと思った。
- ・場所に参加するために、色々なイベントを開催する。また、イベントを単に開催するだけではなく、いかに参加してもらうのかというきっかけづくりが大切になると感じた。

4 実現をめざして

提言1 効果的な情報発信

地域の住民や事業者が区の実情や考え方について知り、連携・協働の取組を充実していくために効果的に情報を共有していく仕組みづくりを進めることを提言します。

提言の概要

- ① 区の実情や考え方を気軽に知ることができる機会を増やしていく 
- ② 多様な区民のニーズに応じて、多様な媒体を活用した情報発信を行っていく 

 港区(行政)  赤坂・青山地域の在住、在勤、在学者  町会・自治会等の地域で活動する団体  民間事業者

提言に対する取組案

取組案 地域に発信する情報を一元管理する組織をつくる。

取組案 港区内の他地区の情報にもアクセスしやすい環境を整える。

提言2 役割分担の明確化

区が行う多岐に渡るまちづくりの取組は、特に専門性のある分野では十分な効果を得ることは容易ではありません。区、住民、地域団体、事業者で役割分担を明確にし、民間に任せていく内容を精査することを提言します。

提言の概要

- ① 区が行う役割を明確にし、地域で共有する 
- ② 情報発信やシティプロモーションなど専門性が求められる取組について、民間事業者の協力を得られる環境を整える 

 港区(行政)  赤坂・青山地域の在住、在勤、在学者  町会・自治会等の地域で活動する団体  民間事業者

提言に対する取組案

取組案 情報の一元管理について、民間事業者等と連携して発信するほか、地域の掲示板に二次元コードを貼り付ける等、アクセスしやすい環境を整える。

取組案 地域づくりの取組の効果検証を第三者に協力を仰ぐ。

第3章

分科会の総括

1 3分野の提言の総括

3分野それぞれの提言をとりまとめるにあたって、分科会での議論を振り返り総括しました。

(1) かがやくまち

全体の議論として、まちぐるみでの防災や住みやすいまちのイメージづくりを区、住民、事業者が一緒になって作り上げていくことが大切だという議論がなされた。それぞれの立場で助け合いながら、協力しあいながら取組を推進していくことが大事だという前向きな意見が多くあげられた。

提言1 安心して移動できる歩行空間の構築

提言2 生活環境に対する区民意識の向上

提言3 防犯・防災対策の充実

(2) にぎわうまち

地域参加と情報発信について多くの意見があげられた。オープンカフェなど、地域のコミュニティを醸成していく上で大切だと思われる具体的な意見も多く出された。総じて、外国人の地域参加、赤坂・青山の魅力発信、町会を含めた地域コミュニティへの関心をSNS等を通じて高めていく、という3つの方向性が示された。

提言1 地域の魅力を活用した情報発信を行う

提言2 住民と地域団体等が交流できる場や機会を充実する

提言3 多様な区民の地域参加を促進する

(3) はぐくむまち

多世代交流について意見が多くあげられた。多様な人が集まるための場、イベントを行うための場など、シチュエーションに応じた場の必要性について議論が行われた。その場所に参加するために様々なイベントを開催し、そして、単にイベントを開催するのではなく、いかに参加してもらうのかというきっかけづくりも重要な視点であることが指摘された。

提言1 多様な主体が連携・協働した子どもの学びの機会の充実

提言2 多世代間の交流のさらなる充実

提言3 地域の資源を活用した交流の場や機会を増やしていく

資料編

1 赤坂地区版計画推進分科会の概要

(1) 概要

公募及び無作為抽出により申し込まれたメンバー18名で構成され、会議は平日夜間に計11回開催されました。赤坂地区版計画書に計上された地域事業の進捗状況及び課題を把握し、後期計画を見据えた課題や施策の方向性等について検討を行いました。

【メンバーの内訳】

年代 \ 性別	男性	女性	計
10～30代	2	1	3
40～50代	3	6	9
60代以上	0	6	6
計	5	13	18

(2) 分科会メンバー（五十音順）

井川 博英（座長）、市川 秀公（グループリーダー）、稲垣 貴美子、春日 裕佑（グループリーダー）、川内 洋平、川名 華子、嶋村 恭子、竹田 眞里、橘 雅子、塚本 清美、霍野 菜穂子、土居 千賀子（副座長）、鳥居 静子、西山 美由喜、肥田 ひとみ、藤井 京乃、堀 裕典、森田 璃椰

(3) 分科会事務局

赤坂地区総合支所 協働推進課



2 開催経過

	開催日	概要
第1回	令和4年 4月27日(水)	○挨拶 ○オリエンテーション ○自己紹介 ○事務連絡
第2回	令和4年 5月30日(月)	○オリエンテーション ○座長・副座長の選出 ○事務連絡 ○質疑応答 ○第3回分科会の内容について
第3回	令和4年 6月16日(木)	赤坂地区版計画推進分科会 勉強会 演 題 「ネイバーフッドデザイン——まちを楽しみ、助け合う『暮らしのコミュニティ』のつくりかた」 講 師 荒 昌史 氏 (株式会社HITOTOWA)
第4回	令和4年 7月4日(月)	○分科会の進め方について ・グループ討議の趣旨、ルール説明 ・「かがやくまち」分野の説明 ・「現状と課題」の説明 ○グループ討議 ・「かがやくまち」分野の現状と課題の抽出 ・課題を解決するためのアイデアの検討
第5回	令和4年 8月10日(水)	○分科会の進め方について ・本日の進行について説明 ・「にぎわうまち」分野の説明 ・「現状と課題」の説明 ○グループ討議 ・「にぎわう」分野の現状と課題の抽出 ・課題を解決するためのアイデアの検討
第6回	令和4年 9月7日(水)	○分科会の進め方について ・本日の進行について説明 ・「はぐくむまち」分野の説明 ・「現状と課題」の説明 ○グループ討議 ・「はぐくむ」分野の現状と課題の抽出 ・課題を解決するためのアイデアの検討
第7回	令和4年 10月17日(月)	○分科会の進め方について ○グループ討議 ・「かがやくまち」分野の議論の整理 ・「かがやくまち」分野の提言内容の検討
第8回	令和4年 11月15日(火)	○分科会の進め方について ○グループ討議 ・「にぎわうまち」分野の議論の整理 ・「にぎわうまち」分野の提言内容の検討
第9回	令和4年 12月7日(水)	○分科会の進め方について ○グループ討議 ・「はぐくむまち」分野の議論の整理 ・「はぐくむまち」分野の提言内容の検討
第10回	令和5年 1月19日(木)	○分科会の進め方について ○グループ討議 ・「かがやくまち」「にぎわうまち」「はぐくむまち」「実現をめざして」分野の意見を共有
第11回	令和5年 2月16日(木)	○分科会の進め方について ○提言書の確認

3 勉強会

(1) 開催概要

- ・日時 : 令和4年6月16日(木) 18時30分~20時
- ・場所 : 第一会議室(赤坂区民センター4階)
- ・参加者 : 14名(オンライン1名)
- ・講師 : HITOTOWA INC.代表 荒 昌史 氏

略歴

県立浦和西高校出身。2004年早稲田大学政治経済学部卒業後、株式会社コスモスイニシア入社(当時リクルートコスモス)。2005年からNPO法人GoodDayを創設し、環境問題に取り組む。

集合住宅を軸にした人々のつながりをつくることで都市の社会課題を解決するネイバーフッドデザイン事業をはじめ、CSR/CSVコンサルティング事業、ソーシャルフットボール事業を展開。東日本大震災を経て、マンションや商業施設などで防災減災研修を行い、自助・共助ができる「よき避難者」を育てる「Community Crossing Japan」、サッカー・フットサルを通じて震災復興と防災減災を行う「social football COLO」を立ち上げる。

2017年度のJリーグ社会連携検討部会委員、同年10月から東京都住宅政策審議会委員を務める。「ネイバーフッドデザイン まちを楽しみ、助け合う『暮らしのコミュニティ』のつくりかた」著者。

(2) 講演内容の概要

「ネイバーフッドデザイン まちを楽しみ、助け合う『暮らしのコミュニティ』のつくりかた」をテーマに、民間事業者の視点からコミュニティづくりについて講演いただきました。

ネイバーフッドデザイン(=人々のつながりをつくりながら、都市や暮らしの課題を解決していくマンションや戸建街区のコミュニティ・エリアマネジメント)に取り組んできた新宿区や江戸川区の事例を紹介いただきました。また、事例にまつわる

「大切にすべきこととエピソード」として、コロナ禍によるつながりの変化やコミュニティのあり方、価値について参加者に共有していただくとともに、質疑応答の時間を多くとっていただき、積極的な意見交換を行っていただきました。

(3) 質疑応答

Q：継続していくためには、どのような点に気を付ければ良いか。

A：取り組みを継続することは難しい。意識していることは、チームを作ること。1回の取り組みが失敗しても、またやりたいというチームがあれば、また続けることができる。また、初めから頑張り過ぎないことも大事。

Q：既にあるコミュニティに入る時、入りたいのだけれども躊躇してしまう壁がある。そこを上手く乗り越えるコツはあるか。

A：そこは難しい。本当であれば、入りたい人とコミュニティを橋渡しする人がいると良い。ただし、実際は、そうした橋渡しをする人はいないことも多いので、大変だと思う。コミュニティの醸成度合、関わり度合にも関係するが、まずは一人でも仲の良い人を作ることが一番大事。コミュニティにいきなり入るといよりは、そのコミュニティにいる人と接点を持つ考えの方が良いと思う。

Q：様々なところでコミュニティづくりをされていると思うが、コロナで、最初のスタイルからどのように変わっているのか、教えていただきたい。

A：コロナはコミュニティや私たちが関わるまちにも非常に大きな影響があった。一番変わった良い面は、オンライン化を進めることができたこと。これまでの地域は、実際に顔を合わせる必要があったけれども、それほど重要ではないことはオンライン会議で済ませるようになった。これまでは、その場にいなければ参加できなかった人も、オンラインでやることで地域の会議に参加できるようになった。交流会をオンラインでやるところも出てきた。これまでとは異なり、その場にいなくても参加できることに気づけた点は良かったと思う。

Q：トラブルの事例があれば教えていただきたい。例えば、元々住んでいる方と新しく来た方とか、世代の違いとか、問題を起こしやすい人がいるとか、価値観が違うとか。人とつながるからこそ起こってしまうトラブルを、どう解決しているのかを教えていただきたい。

A：実態としては、コミュニティの中には変わった方もいっぱいいる。価値観が違う場合もある。何らかの疾患を患われている方もいる。正直、難しいと感じることも多い。そうした場合でも心がけていることは、解決できる・できないは置いておいて、こちらの意図はしっかりと伝えること。ご迷惑をおかけしたことにに対してはお詫びするが、「こういうまちにするために、こういう考え方でやっている」ということは伝えるようにしている。そうした考え方に対しての反対意見についてはしっかり聞くが、うるさいや止めろという無目的な批判は聞く必要ないと思っている。一番難しいと思っているのは、歴史上、仲が悪い地域があること。そういう場合には、未来にとって本当に大事かに気付いてもらえるような問いかけはしている。

Q：赤坂には、商業施設が大変多い。住んでいる人、お店をやっている人、日中だけ仕事で赤坂に来る人等、多様な人がまちを作っている。以前、浅草に住んでいた時に、世界中から多くの人が浅草には観光で来るが、夕方になるとゴミ一つない。それは、商業施設の方が中心になってやっていた。お店をやっている人たちがまちを作っていた。赤坂の場合は、それは無理だと思う。コミュニティを作る上で、どのようにまとめて、つながりを作っていくのか。赤坂独自のコミュニティづくりについて、アドバイスをいただければと思う。

A：商業施設にとっては、にぎわいは大切で、多くの人が集まってくれることが嬉しい。一方、住んでいる人にとっては、自分が行く分には良いが、住む場所としては少し異なる。最近では商業施設が大型化しているので、少し離れた人でもそのまちに来ることはある。再開発のタイミングは、解決できるチャンスだと思う。いろいろな方からお話を聞く場を設けて、一つ一つ折り合いをつけていくしかないと思う。

Q：これから1年かけて赤坂の地区版計画見直しに向けた提言書を作っていく。地域住民の方と行政が協働する際に重視するポイントを教えていただきたい。

A：私たちも、まちづくりの志がある方と一緒に仕事をしていて、楽しみでもあり、緊張しながらやっている。その時に伝えていることは、自分の言いたいことを言ってほしいということ。同じまちに住んでいても、人によってとらえ方や見え方は違うので、「なんでそう思っているのか？」ということを理解しあうことが非常に大事だと思う。「なんで」という部分に非常に大きなヒントがあるので、そこを把握することが大事。もう1つは、内容や規模感にもよるが、全てを叶えられる訳ではないということ。そこについては、優先順位をつけたり、取捨選択をしなければいけない。そうしないと、全てが中途半端になり、何を目指していくのかがわからなくなる。漏れなくすべてをやっていくということなのか、これだけは必ずやりたいということなのか、により、これからの話し合いの進め方が全く異なると思う。そのあたりの共通認識を持つことは大事だと思う。あとは、楽しくやるのが大事。眉間にしわを寄せてやる会議と、楽しくやる会議とでは、後者の方が、皆さんも楽しいし、良いものが生まれると思う。

Q：地域やコミュニティでやっているイベントは、個人的には少しダサいと思う。やっていることは素晴らしいが、「あの変なTシャツを着て参加するのは嫌だ」というようなことは、心理的な面である。赤坂・青山の地域コミュニティを何とかしていこうという集まりなので、最終的なアウトプット、プレゼンテーションの段階では、外部の人がみても、素敵だな、カッコいいな、流石赤坂地区だなというふうに思われるような成果物にできると良い。そういう面でのアドバイスを教えていただきたい。

A：自分たちがカッコいいと思えることは大事。子どもたちが将来あれをやってみたいと思うことは大事。海外では、デザインはまちづくりの中で重要な要素として語られている。シビックプライドという言い方をするが、見た目のデザインだけではなく、その地域のアイデンティティも含まれる。そういうことをまち単位で統一することは非常に大事。

Q：レジュメにあったKOITTOはシンプルで非常に良いと思うが、どういう経緯で生まれたのか。

A：小岩のロゴは、デザイナーさんを入れて皆で考えた。まちに、もう少し若い人が地域の商店街、自治会や町内会、防災組織等にも関わった方が良いと考えているので、少し若い人を意識したデザインを心がけている。若い人だけを対象にしている訳ではないが、若い人で地域に関わる人が少ないという危機意識がある。KOITTOは新しい小岩をつくるという意味だが、小岩にもっと人が来てほしいとか、未来の小岩を作っていくということで、「小岩に来いっ」とからKOITTOになった。

Q：サービスとコミュニティとの相性が悪いという話があったが、そのあたりは赤坂でやっていく場合に、どう考えていけば良いか。

A：サービスとコミュニティとの違いに気を付けて物事を進める必要がある。コミュニティとして課題を解決したり、より良いまちを作っていく中で、お金を回していくことは重要だと思う。ただし、お金の話しではなく、等価交換の関係性なのか、共創の関係性なのか。サービスは等価交換で、当事者意識がなくなってしまう。そうではなく、お金が介在するとしても、一緒にできることを持ち寄る関係性であることが大事。そういうコミュニティであれば、地域のいろいろな課題にも向き合っていけるのではないかなと思う。



4 赤坂地区総合支所の取組の現状（会議配布資料）

令和3年度 赤坂地区総合支所地域事業 報告書

事業No.	1	事業名	違法置き看板ゼロ作戦	R3 事業費	273千円
			赤坂地区統計画書 36ページ	担当課	まちづくり課

事業概要

公道上に違法設置された商業看板等は、歩行者の安全な通行を妨げるとともに、まちの美観を損ねる要因となっています。

地域の団体と協働して、人の往来が特に多い駅前、繁華街を中心に、公道上に置き看板を「出しづらい」意識・雰囲気をつくることを目的としたパトロールを実施します。

また、違法看板については看板所有者に公道上に出不さないように、注意、指導、警告するほか、改善の見られない看板については撤去を実施します。

区民、行政及び警察が一体となり、定期的な取組を実施することで、まちの美観を向上させ、快適に通行できる道路を確保し、より安全で安心できるまちづくりを推進します。

R3年度の
実績

定期的なパトロールについて

平成27年度から看板バスターズとして始まったパトロールは、地域、警察、行政の三者の連携により、定期的に行われています。

◆対象の通り・連携商店街（会）◆

通り名	連携商店街（会）
特例都道赤坂杉並線（413号線）〈都道〉	赤坂通り商店会、赤坂第一商店会
特別区道第1041号線〈区道〉	赤坂一ツ木通り商店街振興組合
特別区道第568号線〈区道〉	赤坂みすじ通り会
特別区道第867号線〈区道〉	エスプラナード赤坂商店街振興組合

◆実施日◆

赤坂通り商店会、赤坂第一商店会	毎月第2月曜日
赤坂一ツ木通り商店街振興組合	毎月第3火曜日
赤坂みすじ通り会	毎月20日 午後2時～
エスプラナード赤坂商店街振興組合	毎月第2・4水曜日 午後0時15分～

上記の通りを各商店街（会）と赤坂警察署、赤坂地区総合支所まちづくり課及び協働推進課と連携し、定期的なパトロールをしています。

平成30年度からは、口頭での指導に加え、文書での指導も行っています。



違法置き看板パトロールの様子

今後の
展望・方向性

引き続き、地域、警察、行政の三者でパトロールを実施することで、違法置き看板ゼロを目指し、取り組んでいきます。

令和3年度 赤坂地区総合支所地域事業 報告書

事業 No.	2	事業名	赤坂・青山みんなで学ぼうさい事業	R3 事業費	2,673千円
			赤坂地区版計画書 41ページ	担当課	協働推進課
事業概要		<p>国際医療福祉大学と連携して、地域の防災力の向上に向けた取組を実施します。年間を通じて、次世代の地域を担う子どもたちや子育て世代、集合住宅住民等のカテゴリー別に防災知識の習得に向けた講座や意見交換を図るワークショップを実施し、若年層を中心とした防災力の向上を図ります。また、講座受講者に地域防災協議会主催の避難所運営訓練への参加を促すことで、地域で活動している人となつなく機会を創出します。</p>			
R3年度の 実績	<p>子育て世代、学生・社会人カテゴリーの2つに分け、ワークショップを含めた講座を実施しました。</p> <p>【子育て世代】</p> <p>第1回講座 日時：令和3年9月5日(日) 13時～14時30分 場所：青山小学校体育館 内容：防災・避難の基本について</p> <p>第2回講座 日時：令和3年10月17日(日) 14時～15時30分 場所：青山小学校体育館 内容：災害に備えた備蓄方法や各家庭における備えについて</p> <p>第3回講座 日時：令和3年12月5日(日) 14時～15時30分 場所：青山小学校体育館 内容：自宅の家具レイアウトの安全性など、お子様を守る具体的な取組について</p> <p>【学生・社会人】</p> <p>第1回講座 日時：令和3年11月18日(木) 19時～20時30分 場所：青山中学校 内容：地域で考える防災の基本</p> <p>第2回講座 日時：令和3年12月16日(木) 19時～20時30分 場所：青山中学校 内容：命を守る避難行動と健康を守る避難所対策</p> <p>第3回講座 日時：令和4年1月20日(木) 19時～20時30分 場所：青山中学校 内容：コロナ禍での分散避難のすすめ</p>				
	今後の 展望・方向性	<p>引き続き地域での防災力向上を目的に、講座を実施します。</p>			



令和3年度 赤坂地区総合支所地域事業 報告書

事業 No.	3	事業名	赤坂でつながり隊	R3 事業費	1,936 千円
			赤坂地区版計画書 51 ページ	担当課	協働推進課

事業概要

町会・自治会、商店会、地域活動団体、NPO、サークル、大学、企業の“つながり（コミュニティ）”を深め、情報や機会、資源を分かち合える交流イベントを実施します。交流イベントをとおして、赤坂・青山の在住・在勤・在学者が身近なコミュニティ活動に興味・関心を持ち、活動への参加をとおして人とつながり、仲間を広げることができる仕組みづくりをします。

【コミュニティ調査】

赤坂・青山地域で活動する町会・自治会を含む団体・コミュニティに対し、活動内容、活動状況を把握するためのアンケート調査を実施しました。

【交流事業の実施】

コミュニティ調査により、他団体とのコラボレーションや交流を希望する団体・コミュニティを対象とし、お互いの団体・コミュニティの活動内容や活動状況について、発表する場として交流会を開催し、参加団体同士の理解と親睦を深めました。

交流会実績

回数	区分	実施日	参加団体数
第1回	交流会	令和3年10月30日	5団体
第2回	交流会	令和3年11月20日	14団体
第3回	交流会	令和3年12月15日	11団体
第4回	とりまとめ会	令和4年2月5日	※注1

※注1 第1回から3回までの交流会参加者による全体会として実施予定でしたが、参加団体数が開催定員に満たなかったこと、またコロナウイルス感染拡大防止のため中止とし、代替としてこれまでの交流会の活動を振り返るニュースレターを参加団体に送付しました。

R3年度の実績



【PRパンフレットの作成】



令和3年度の事業紹介および令和4年度以降の「赤坂でつながり隊」参加団体の募集、普及啓発を目的としたPRパンフレットを作成し、赤坂・青山地域にある、区民センター、いきいきプラザ等施設窓口で配布しました。

今後の展望・方向性

これまでの交流会で顔見知りとなった団体・コミュニティ同士がお互いに理解と親睦を深め、関係性を広くつなげていけるよう、交流会の継続をはじめ、情報共有のためのプラットフォームの作成等、地域コミュニティの活性化を図ります。

令和3年度 赤坂地区総合支所地域事業 報告書

事業 No.	4	事業名	赤坂・青山Meet upプロジェクト	R3 事業費	1,663千円
			赤坂地区版計画書 51ページ	担当課	国際推進課
事業概要 <p>町会・自治会をはじめとする地域団体や大使館等の地域資源を活用して、日本人と外国人が地域の魅力や課題について一緒に考える講座を行います。講座実施に当たっては、オンラインの活用やまち歩きの実施など多様な手法を用いて、両者が交流できる機会を創出し、地域への参画を促します。</p>					
R3年度の 実績	<p>令和3年度は、「地域の魅力を知る」をテーマにまち歩きやプレゼンテーションを通して、日本人参加者外国人参加者、互いが思う地域の魅力を伝え合いました。</p> <p>【第1回講座】令和3年11月27日(土) 日本人メンバーのみで集まり、「やさしい日本語」講座を受講しました。講座では、「多様性」について考えるグループワークや、日本語の文をやさしい日本語にする練習を通じて参加者同士が打ち解けていました。 後半は、第2回講座に向けた準備として、グループごとに外国人参加者に伝えたいことやまち歩きのコースを考えました。</p> <p>【第2回講座】令和3年12月11日(土) 各グループに外国人メンバーが加わり、日本人メンバーが考えたコースに沿ってまち歩きをしました。各スポットでは、日本人メンバーがやさしい日本語を使い、外国人に伝わるように工夫をしながら説明をしました。 また、参加者は、まち歩きをしながらお互いの国や仕事の話をしながらコミュニケーションを取り、交流を深めました。初めて知る魅力的なスポットに驚く外国人メンバーもいれば、外国人メンバーが深い知識を日本人メンバーに伝える光景もあり、メンバー同士での学びが多くあるまち歩きとなりました。</p>				
	 <p>【第3回講座】令和4年1月19日(水) これまでの活動を踏まえて、グループごとにプレゼンテーションを実施しました。プレゼンテーションは、日本人メンバーからのまち歩きのコースの紹介から始まり、外国人メンバーから、「母国の紹介」、「自分が思う赤坂・青山の魅力」、「赤坂・青山の仲間とやってみたいこと」をテーマに発表してもらいました。 母国の歌を歌う外国人メンバーがいたり、グループのメンバー一人ひとりを紹介するグループがあったりと、グループごとに工夫が凝らされていました。 プレゼンテーションを通して絆を深めたメンバーは笑顔で感謝を伝え合いながら講座を終えました。</p>   				
今後の 展望・方向性	<p>「地域の課題を考える」をテーマに、グループワークを通して日本人と外国人で地域の課題を共有しながら解決策を考える。</p>				

令和3年度 赤坂地区総合支所地域事業 報告書

事業 No.	5	事業名 赤坂親善大使 魅力発信プロジェクト	R3 事業費	1,988 千円
		赤坂地区版計画書 53 ページ	担当課	協働推進課
事業概要 <p>赤坂・青山のマスコットキャラクター「赤坂親善大使」と平成 28 年度に港区政 70 周年・総合支所制度 10 周年を記念して、地域の方々とともに制作した赤坂・青山のイメージソング「MY HOME TOWN」を活用して、地域への愛着を育むとともに、地域の活性化を図ります。赤坂親善大使が地域で行われる行事やイベント等へ出演したり、SNSによる情報発信を積極的に行うことで、集客やイベントの活性化に寄与します。</p> <p>赤坂・青山イメージソング「MY HOME TOWN」を地域で行われる行事やイベント等、あらゆる場面で活用し、地域に浸透させることで地域への愛着を育みます。</p>				
R3 年度の 実績 <p>赤坂親善大使</p> <p>◆イベント出演◆ 令和3年度は、新型コロナウイルス感染症拡大により地域のイベントの多くが中止となったため、赤坂協働推進課で行われた事業を中心に出演しました。 子どもから大人まで幅広い年代の方々とふれあい、イベントの活性化に寄与しています。 令和3年度 イベント出演件数 11 件（令和4年3月末現在）</p>  <p>◆SNS (Facebook) の活用◆ イベントの事前告知・報告や、赤坂親善大使が出演したイベントの報告を、赤坂親善大使の Facebook を活用して行いました。 令和3年度 投稿件数：68 件（令和4年3月末現在）</p>  <p>◆赤坂親善大使のチラシやシールの配布◆ 赤坂親善大使の認知度を向上させるために、赤坂親善大使の PR チラシや、シール、クリアファイルを協働推進課で実施している事業等で配布しました。</p> 				
今後の 展望・方向性 <p>「赤坂親善大使」は、地域のイベントへの出演や、SNSでの情報発信を積極的に行うことにより、その認知度を上げるとともに、イベントの活性化を図ります。「イメージソング」は、地域で活用してもらい場を増やし、地域に浸透させることで、地域への愛着を育みます。</p>				

令和3年度 赤坂地区総合支所地域事業 報告書

事業 No.	6	事業名	赤坂・青山 魅力“知伝活”事業	R3 事業費	1,298千円
			赤坂地区版計画書 54ページ	担当課	協働推進課

事業概要	<p>区民参加による ICT を活用した地域の魅力発信事業を行います。区民自らが講座やワークショップをとおして地域の魅力を「知り」、ICT を「活用」した効果的な情報発信の方法を検討し、区民目線の新たな地域の魅力を広く「伝える」ことで、地域への関心を喚起するとともに、地域への愛着を醸成します。</p>
------	---

R3 年度の 実績	<p>赤坂青山「知伝活(ちでんかつ)」プロジェクト</p> <p>赤坂・青山地域の魅力を「知」ることに重点を置き、各メンバーが感じる赤坂・青山地域の魅力を共有しました。</p> <p>また、その内容を第三者に伝わりやすくするために紹介内容・写真を検討し、「赤坂青山魅力紹介冊子」を作成しました。</p>
	<p>【赤坂・青山Meet up プロジェクトとのコラボレーション】</p> <p>まち歩きやプレゼンテーションを通して、日本人と外国人が互いに地域の魅力を伝え合う「赤坂・青山Meet up プロジェクト」に赤坂青山「知伝活」プロジェクトのメンバーも参加しました。</p> <p>赤坂・青山Meet up プロジェクトの日本参加者が外国人参加者に地域の魅力を伝えるうえでの知識の伝授やまち歩きのサポートを行いました。</p> <p>また、外国人参加者に魅力を紹介する参考資料として、赤坂青山「知伝活」プロジェクトで作成した「赤坂・青山地域魅力紹介冊子」を渡して活用方法を説明しました。</p> <p>【港区観光大使とのまち歩き】</p> <p>港区観光大使である澤内隆氏をお招きし、赤坂・青山地域の歴史や地理、「第三者への伝わりやすい伝え方」についてお話いただき、澤内氏と共に赤坂エリアのまち歩きを実施しました。</p> <p>赤坂青山「知伝活」プロジェクトのメンバーからもまち歩きスポットについて澤内氏へ紹介し、どのように伝わったかフィードバックを受けました。</p>

今後の 展望・方向性	赤坂・青山地区の魅力を幅広く伝えるため、紙 データを用いた情報発信その他動画作成予定
---------------	--

令和3年度 赤坂地区総合支所地域事業 報告書

事業 No.	7	事業名	よちよち子育て交流事業	R3 事業費	4,000千円
			赤坂地区統計画書 61ページ	担当課	区民課

事業概要

保健師、栄養士などの専門職による子育てに関する相談や情報交換、子育て世代同士の交流の場として、「よちよち子育て交流会」を実施します。交流事業では、地域の人材を活用し、親子で楽しめるプログラムを提供して交流を促進します。より多くの親子が参加できるよう、新しい時代に対応したオンラインによる実施など内容の充実を図ります。

よちよち子育て交流会

	赤坂地域	青山地域	オンライン
開催日	月2回(火曜、金曜) 年3回(土曜)	月1回(木曜)	5/14(金)、5/20(木) 5/25(火)、8/4(水) 9/1(水)、2/9(水)
時間	午前10時から12時まで		午前11時から12時まで
会場	赤坂区民センター	青山いきいきプラザ	Zoomによる配信
予定回数	平日24回、土曜3回	12回	3回
実施回数	平日22回、土曜3回	11回	6回
対象	赤坂・青山地区にお住まいの乳児とその保護者の方		
プログラム	赤ちゃんのお口のケア、赤ちゃんの事故予防、離乳食のコツ、リズム体操ほか		

緊急事態宣言の発出により、4月赤坂実施予定の1回を別日に振替え、5月実施予定の3回分をオンライン実施に変更しました。

共通プログラム

絵本の読み聞かせ、手遊び歌
参加者同士の交流、育児相談
身長・体重測定

R3年度の
実績

交流会の様子



オンライン開催

今後の
展望・方向性

平成27年度に赤坂地域で直営にて事業を開始しました。平成30年度から業務委託とし、青山地域でも開始しました。より多くの方に参加していただけるように事業の認知度を上げていくとともに、内容の充実を図り、令和4年度は年42回(土曜日4回含み赤坂30回、青山12回)開催します。

令和3年度 赤坂地区総合支所地域事業 報告書

事業 No.	8	事業名	赤坂・青山子ども共育事業	R3 事業費	6,583千円
			赤坂地区版計画書 62ページ	担当課	協賛推進課
事業概要		<p>赤坂・青山は、子ども向け事業に取り組む企業、団体などの人的資源や秩父宮ラグビー場をはじめとしたスポーツ関連の施設、古くから伝わる歴史・文化的な資源が豊富な地域です。こうした地域の資源を活用し、子どもを地域ぐるみで見守り、育てる環境を整備します。</p> <p>住民や地域団体、地域の企業等との連携・協働により、小・中学生を対象に「驚き・感動・気づき」を与え「自ら考え、行動する」機会となる講座を実施します。また、親子で参加できる講座を行うことで、多世代交流の機会を創出します。さらには、子どもに関わる地域の企業・団体等のネットワークを構築し、連携を促すことで、地域の子育て力を育てます。</p>			
R3年度の 実績	<p>新型コロナウイルス感染症の拡大による影響はありましたが、感染防止対策に工夫を凝らして実施できた講座もありました。</p> <p>◆文化講座・・・4講座◆</p> <p>①赤坂伝統の太鼓を打ってみよう！赤坂芸者衆と一緒に成座太鼓教室（12月18日土曜日）</p> <p>②ほんものに見える料理を作ろう！食品サンプルづくり体験講座！（1月22日土曜日）</p> <p>③国際自動車（株）によるバスガイド体験講座（3月12日土曜日）</p> <p>④歴史を感じながら親子でタイムスリップ！赤坂まち歩き講座（3月26日土曜日）</p> <p>◆スポーツ講座・・・2講座◆</p> <p>①セラピストランナーによるランニング講座（6月12日土曜日）</p> <p>②東京サントリーサンゴリアスによるラグビー講座（11月6日土曜日）</p>				
	<p>◆赤坂・青山共育情報局◆</p> <p>赤坂・青山共育情報局は、主に地域の学校、青少年対策地区委員会、企業・団体等で構成された、子どもを対象とした事業に携わるネットワークを構築、強化するための組織です。情報共有の場である共育連絡会への参加のほか、講座等にご協力いただいています。</p>				
今後の 展望・方向性	<p>地域で活躍する専門的な技能・知識を有する人を講師に迎える等、地域資源をより効果的に活用します。また、親子で参加できる講座を実施し、多世代交流の機会を設ける等、講座内容を工夫します。</p>				



成座太鼓教室



連絡会の様子

令和3年度 赤坂地区総合支所地域事業 報告書

事業 No.	9	事業名	子ども地域間交流事業 ～離れていても心は一つ！～	R3 事業費	4,974 千円
			赤坂地区版計画書 63 ページ	担当課	協働推進課
事業概要		全国連携によるお互いのまちの発展と子どもの健全育成のため、岐阜県郡上市、和歌山県和歌山市と子どもを中心とした交流事業を実施します。			
R3 年度の 実績	<p>田舎の夏休み体験教室</p> <p>令和3年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けましたが、例年とは違う形で郡上市とのつながりを継続し、来年度以降の交流事業をさらに盛り上げていくため、以下事業を行いました。</p> <p>【郡上本染めの鯉のぼり掲揚】 7月から8月の東京2020大会開催期間中に、赤坂地区総合支所前に郡上本染で色付けされた五輪の5色の鯉のぼりを掲揚しました。この鯉のぼりは、平成30年度・令和元年度に赤坂・青山地域の小学生が郡上市を訪れた際に、現地の小学生と一緒に色付けしたもので、「郡上市と港区から東京2020大会にエールを送っている。」ということを示しています。また、鯉のぼりと一緒に飾られた「郡上からエール」と書かれたメッセージボードは、赤坂中学校ボランティア・教養部と青山中学校3組の生徒の皆さんに作成していただきました。</p> <p>【パネル展】 同時期に港区役所本庁舎と赤坂区民センターにて、郡上市を紹介するパネル展を開催しました。郡上市の名所や名物、文化などを多くの方に知っていただき、会場に設置した「郡上にメッセージを送ろう！」というコーナーには、「郡上おどりを体験してみたい!」、「八幡城を現地で見てみたい!」などたくさんメッセージが集まりました。</p> <p>【郡上名物メニューの提供】 赤坂コミュニティプラザ内のレストランローザでは、郡上市民のソウルフードの「鶏(けい)ちゃん」をメニューの一つとして提供しました。限定40食があったという間に完売し、大人気でした。</p>				
	<p>和歌山市との交流</p> <p>【パネル展・グルメ祭】 10月から11月にかけて、赤坂地区総合支所及び赤坂中学校にて、和歌山市を紹介するパネル展を開催しました。さらに、赤坂コミュニティプラザ内のレストランローザでは、和歌山市からご提供いただいた食材を使用し、「わかしらすかき揚げ定食」と「和歌山ラーメン」を販売しました。</p> <p>【和歌山市への実地調査】 全国連携情報誌「港から」の取材同行で和歌山市を訪問し、和歌山城や四季の郷公園など地域資源を調査しました。今回の訪問を契機に、令和5年度から「(仮称)親子で和歌山市SDGs体験ツアー」の実施計画が始まり、和歌山市や観光協会などと調整を進めています。</p>				
今後の 展望・方向性		<p>これまで継続して実施してきた郡上市との子ども交流に加え、令和5年度から新たに実施予定の和歌山市との子ども交流に向けて、予算や実施頻度の調整等を行っていきます。</p>			



令和3年度 赤坂地区総合支所地域事業 報告書

事業 No.	10	事業名	赤坂・青山ふれあいサロン事業	R3 事業費	563千円
			赤坂地区版計画書 65ページ	担当課	区民課

事業概要

高齢者が自宅に引きこもりがちにならず気軽に外出し、地域の人々と交流が図れるよう、高齢者のいきがらづくりや交流の場として、「赤坂・青山ふれあいサロン」を実施します。ふれあいサロンの運営は、「赤坂・青山地区タウンミーティング いきがらづくり推進分科会」の区民メンバーが中心となって行います。なお、サロンの運営をとおして、リーダーを育成し、地域での交流が促進されるよう努めていきます。

赤坂・青山ふれあいサロン

	赤坂サロン	青山サロン
開催日	毎月第2・第4水曜日	毎月第3水曜日
時間	午後1時30分から2時30分まで	
会場	赤坂区民センター	赤坂地区高齢者相談センター
実施回数	10回	6回
対象	概ね60歳以上の区民	
内容	茶話会、講座、手芸、ゲーム等	

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、4月下旬から7月上旬までの8回、1月中旬から3月末までの8回を中止しました。

◆交通安全講座◆

実施日 令和3年9月8日
参加人数 7人



◆トーンチャイム演奏会◆

実施日 令和3年10月27日
参加人数 8人



◆クリスマスリースづくり◆

実施日 令和3年11月24日
参加人数 17人







今後の展望・方向性

新型コロナウイルス拡大防止に十分注意して、高齢者が気軽に外出し、地域の人々と交流が図ることのできるサロンを開催していきます。

令和3年度 赤坂地区総合支所地域事業 報告書

事業No.	11	事業名	赤坂・青山多世代交流促進事業	R3 事業費	3,735千円
			赤坂地区版計画書 66ページ	担当課	管理課

事業概要

赤坂・青山にある保育園、幼稚園、小・中学校、子ども中高生プラザ、いきいきプラザ、町会・自治会等と連携したイベントを実施します。赤坂区民センター等の大規模施設等を活用し一斉に集える機会を創出し、施設利用者による作品展示や舞台発表、ワークショップ等を通じて子どもから高齢者まで幅広い世代が触れ合う機会を創出します。

R3年度の実績

内容 赤坂地区版計画書内でも掲げられているSDGsをテーマに、地域の施設や赤坂地区総合支所等の事業を知っていただけるとともに、様々な年代の方々が、一緒に楽しんでもいただけるようなスタンプラリーを実施しました。

時期 令和4年2月14日(月)～26日(土)

場所

- ◆TBS・・・ミツバチ教室
- ◆赤坂地区いきいきプラザ・・・古着回収&フードドライブ、ポッチャ体験(青山)、折り紙をつくろう(青南)
- ◆赤坂地区子ども中高生プラザ・・・古着回収&フードドライブ
- ◆赤坂地区放課GO→クラブ・・・赤坂地区いきいきプラザと交流事業
- ◆ののあおやまグループ・・・備製をつくろう
- ◆赤坂図書館・・・SDGs関連展示
- ◆子ども家庭支援センター・・・SDGs関連展示
- ◆赤坂区民センター・・・SDGs関連展示(山田養蜂場、青山小学校、赤坂小学校、和歌山市、郡上市)
- ◆レストランローザ・・・残さず食べようキャンペーン
- ◆高橋是清翁記念公園管理事務所・・・プチプレーパーク@青葉公園
- ◆健康推進センター・・・健康づくりキャンペーン

景品 SDGsデザインエコバッグほか(無品交換料よ赤坂Bisタワー2階のスペースを借りて実施。なお、赤坂Bisタワーの景品交換料了後は、管理課と赤坂地区いきいきプラザで3/31まで実施。)

今後の展望・方向性

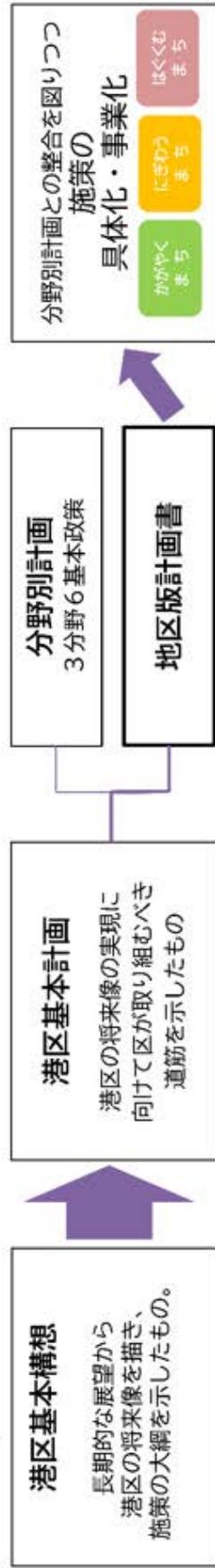
令和3年度に行ったスタンプラリーの内容をさらに拡大し、参加者(出展者含む)を増やして実施します。

港区基本計画・地区版計画書 概要

資料 2-1

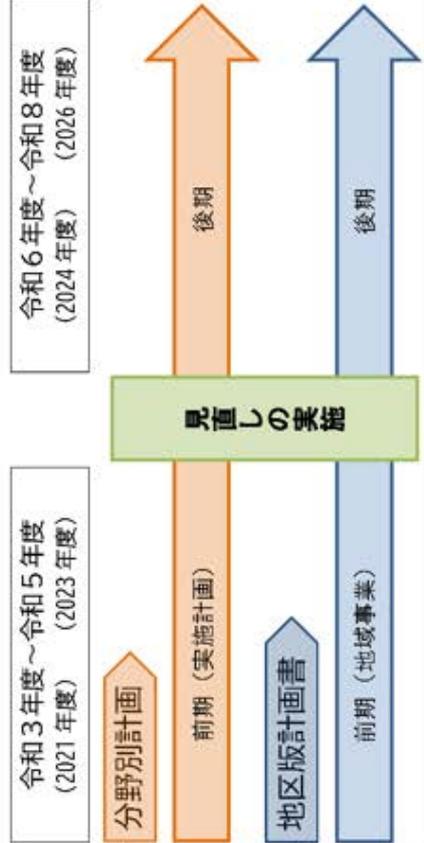
区民意識調査の結果や区民参画組織からの提言を踏まえ、めざすまちの姿として「誰もが地域に関心をもち共存しているまち 赤坂・青山」を実現するために、区が取り組むべき施策や方向性を具体的に明示したものを。

イメージ図



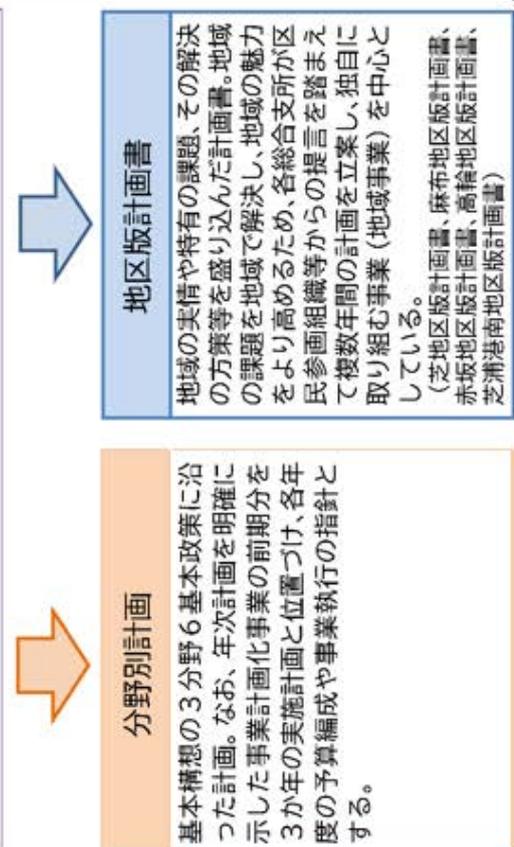
計画の期間

令和3（2021）年度を初年度とする令和8（2026）年度までの6か年計画。後期（令和6（2024）年度～令和8（2026）年度）については、前期3年目（令和5（2023）年度）に見直しを行う。



計画の構成

分野別計画と5地区の総合支所ごとに策定する地区版計画書をもつて、港区基本計画を構成する。



赤坂地区区版計画推進分科会 概要

資料2-2

赤坂地区区版計画とは

- ①赤坂・青山地域の実情や特有の課題、その解決の方策等を盛り込んで各総合支所の責任において策定する計画です。
 - ②地域の特性を生かし、魅力を高めるため、区民参画組織からの提言を踏まえて創出した「地域事業」の年次計画を兼ねています。
- ※ 地区版計画画書は「芝」、「麻布」、「赤坂」、「高輪」、「芝浦港南」の5地区がそれぞれ策定しています。



役割

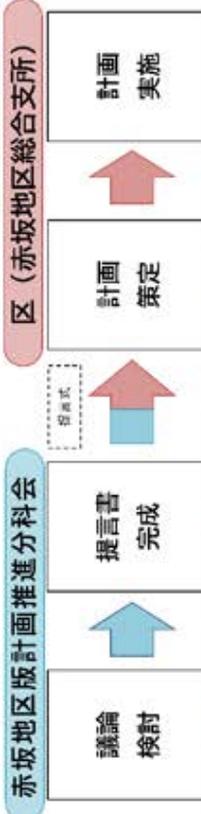
◆ 赤坂地区区版計画推進分科会の役割

- ①新型コロナウイルス感染症の影響等の社会動向を踏まえ、地域特有の課題への対応や更なる魅力向上を目指すし、解決策を検討します。
- ②検討内容を「提言書」として取りまとめます。
- ③取りまとめた「提言書」を区長に提言します。

◆ 区役

- ①「提言書」を基に、計画を策定します。
- ②策定した計画を実施します。

◆ イメージフロー



赤坂地区区版計画推進分科会における検討の土台

- ◆ 新型コロナウイルス感染症の影響
感染症の影響を踏まえ、行政と区民とのコミュニケーションや地域でのイベント開催時における配慮、手法の変革について考慮する必要があります。
- ◆ SDGs
SDGsが掲げる「誰一人取り残さない」社会の実現に向けて、地区版計画画書ではSDGsの目標を踏まえて、政策や施策との関連を明らかにし事業の推進をしています。提言の検討にあたっては、その方向性とSDGsのゴールの関係についても考慮する必要があります。

赤坂地区区版計画推進分科会で検討すること

赤坂地区区版計画画書で実現可能な範囲を明確化するため、分科会で検討する提言内容の一例を示します。

ポイント 地域の課題を地域で解決し、地域の魅力をより高めること

◆ 住民、企業、他自治体との連携・協働

- ・区民参画主体による事業の実施
- ・地元企業による講座の実施
- ・自治体間交流（岐阜県郡上市・和歌山県和歌山市）の推進



◆ 歴史的資源を生かしたにぎわい創出

- ・地域の人が主体で観光冊子や動画を作成し、歴史の伝承やにぎわいを創出
- ・歴史文化に直接触れてもらえよう、地域内外の人が参加できるイベントの実施



◆ 子どもや働き盛り世代、高齢者などが体を動かす機会の創出

- ・気軽に参加できる健康づくり関連のイベントを開催
- ・2019 ラグビーW杯や東京2020大会をレガシーとしたスポーツ教室などの企画、実施



◆ コミュニティ形成のきっかけづくり

- ◆ 町会・自治会の活動支援と担い手の発掘
- ・交流の場を設置し、住民が気軽に交流できる仕組みづくり
- ・イベント等を開催し、交流が少ない若い世代が参加する機会を創出



地区版計画画書に掲載できないこと

- ◆ 分野別計画に計上すべきこと（区政全体に関わること）
- ◆ 支所（区）の取扱業務の範囲を超えること（駅、地下鉄、国道、ヘリポート等）
- ◆ 法令等の改正が必要なこと

総合支所の組織と主な業務

組 織		主 な 業 務
副総合支所長		総合支所長の補佐(管理課長を兼務)
管理課	管 理 係	総合支所の調整及び管理運営、区民センターの管理運営、人権・同和問題、情報公開、自己情報開示等請求に係る相談、区民からの意見・要望・陳情の受付、区民の声を広く聴くための事業の実施、区の後援名義などの申請、り災証明の発行、区政資料の収集及び提供 など
	施設運営担当	所管区域施設の管理運営・施設計画(保育園、港区保育室、いまいきプラザ、子ども中高生プラザ、放課 00→クラブ)子育てひろば事業等の運営に関すること など
協働推進課	協働推進係	地域振興 町会・自治会活動への支援、老人クラブへの支援、青少年対策地区委員会活動への支援、地域の商店街活動の支援、区設置看板の維持管理 など 防災・生活安全 地域の防災住民組織への支援、地域防災訓練の企画・実施、消防団への支援、地域の生活安全活動(安全パトロールなど)の推進、家具転倒防止器具等助成の申請・住まいの防犯対策助成の申請受付 など 環境・清掃 環境美化・道路美化活動の支援、リサイクル活動団体への支援、防鳥ネットの配布、環境に関する諸問題(騒音・振動など)の相談、カラス対策の相談 など その他 地域猫の去勢・不妊手術費用助成、区民向け住宅の入居案内の配布、災害見舞金(小規模)の支給、区民交通傷害保険の受付 など
	地区政策担当	地域における計画づくり、地域情報誌(紙)や広報番組の制作、区民・NPO 等との協働推進や文化振興に関する相談、地域文化の推進、区政への区民参画の推進 など
まちづくり課	まちづくり係	まちづくりの相談、交通対策の相談、緑化の普及・啓発、保護樹林等に関すること、土木施設の占用・使用許可、屋外広告物の許可、放置自転車対策、空き地管理の適正化、自転車等駐車場の管理運営 など
	土木担当	道路・橋りょう・公園・公衆便所・街路樹・街路灯等の新設、改良および維持管理、私道の整備、防犯灯設置助成、港湾の埋立工事、河川等の改良および埋立工事、道路の掘削、復旧工事の指導・監督、土木施設の自費工事、沿道掘削、掘削路拡幅整備など
区民課	窓口サービス係	住民登録・証明発行・就学 転入・転出・区内転居の届出、その他住民登録に関する相談・届出、住民票の写しの交付、印鑑登録と印鑑登録証明書の交付、マイナンバーカード(個人番号カード)の交付、各種証明書のコンビニ交付に関する手続き、住居表示の新築届の受付・住居表示実施及び町名の変更に伴う証明書の交付、転入学通知に関する事務、公的個人認証 など 戸籍に関する届出・証明発行 出生・死亡・婚姻などの戸籍届出、戸籍証明(謄本・抄本・受理証明)の交付、埋火葬・改葬の許可など 区税・国民健康保険・国民年金・介護保険 特別区民税・都民税・軽自動車税・国民健康保険料・介護保険料の納付、特別区民税・都民税の申告受付、納・課税証明書の交付、原動機付自転車等の登録・廃車、自動車臨時運行許可、国民健康保険に関する届出、国民年金の加入及び保険料免除申請に関する届出、介護保険被保険者証の再交付など 高齢者や障害のある人 後期高齢者医療制度、心身障害者医療費助成に関する手続きや相談、補器具など給付に関する申請受付 その他 区民葬儀券の交付
	保健福祉係	高齢者 紙おむつ給付・救急通報システム・配食サービスの申請受付、虐待防止・成年後見制度の相談、費課老人ホームの入居等の相談・申請受付、介護保険の要介護(要支援)認定の申請受付、障害者控除対象者認定、救急医療情報キットの申請受付・配布など 子育て 保育の必要性の認定の申請受付、保育園の入所相談・申込受付、保育園在園者の各種届出受付、一時保育などの相談、子ども医療費助成、出産費用助成、児童手当、児童育成手当、児童扶養手当、特別児童扶養手当、ひとり親家庭等医療費助成 など 障害のある人 身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳、要の手帳、各種障害者手当、各種障害者福祉サービス、自立支援医療(育成・更生・精神)、難病等医療費助成などの相談・申請受付 など 保健衛生 母子健康手帳の交付、妊婦健康診査費用助成の申請受付、一般健康相談・母子及び乳幼児の健康相談・精神保健相談・健康教育の実施、小児慢性疾患医療費助成・養育医療の申請受付、飼犬の登録など その他 民生委員・児童委員活動への支援
	生活福祉係	生活の相談(生活にお困りのときの相談)、生活保護の実施と自立支援、路上生活者に対する保護・自立支援事業(芝地区総合支所のみ)、職没者の遺族等を対象とした特別給付金の申請受付等

2022年4月7日現在

5 メンバーからの感想（提出のあった方のみ、50音順で掲載）

稲垣 貴美子

最初に分科会メンバー募集のお手紙をいただいた時には「私なんかでお役に立てるのかな？」という思いでした。しかし参加して皆さんの様々な意見を傾聴し、とても勉強になり刺激を受けるようになりました。

赤坂青山地区が数多くの企業の本社が存在し、多様な外国人が多数滞在する特殊なまちであることにも気づきました。何より「まちに住まう」とはどういうことか、「住みよいまちとは」「まちをつくる」とはどういうことなのか。「共に生きること」「まちを次世代に繋げていくこと」であるということに気づかせてくれました。貴重な機会を与えていただき御礼申し上げます。

最後になりましたが座長、副座長、グループリーダーの4役の皆様、赤坂支所の皆様大変お世話になりました。

私達の提言が今後の赤坂青山地区のさらなる発展に少しでも繋がりますように心から願っています。

春日 裕佑

青山に住み始めてから数年と間もない中ですが、地域紙のボランティアに参加したことをきっかけに住んでいる街に関心を持ち始めました。その後赤坂地区版計画推進分科会への参加する機会をいただき、色々な方々と住んでいる街に対しての興味関心や課題意識を共有し、どう良くしていけるかという共通テーマに対して話し合える時間はとても有意義なものでした。

会を通じて課題を知り、多くの意見が出ていく中で港区の職員の方々も街を守る為に様々な制約と限りある時間の中で様々なことに取り組まれていることを知り感謝しかありません。だからこそ住民、区職員、民間企業等さまざまな立場の方々が自らの強みを生かしつつ、お互いの立場を理解し合い、一致団結して協力し未来の街づくりへと協力することが不可欠だと思いました。

地区版計画はまとめて終わりではなく、これから多くの人たちと協力し合って新しい取り組みや改善活動を進めていき、また次の世代に繋いでいくことが何よりも大切なことだと思いますので、一区民としてこれからも微力ながら力添えさせていただけたら幸いです。

最後になりますが改めて、約一年間ご一緒させていただきました参加者の皆様、事務局の皆様ありがとうございました。

嶋村 恭子

赤坂の街に関りを持ったのは、日本の経済がバブル期の絶頂にあった頃で、上司に夜の赤坂の街に誘われて、大人の気分になったことを今でも忘れられません。私にとっての赤坂は夜の街であり会社をリタイアした後はエスプラナード赤坂商店街振興組合の理事を務めながら、商店街の活性化を目指して活動してきました。この度の赤坂地区版計画推進分科会に参加しなければ、夜の赤坂を知るだけで、町内や自治会が中心となる赤坂に住まわれる方々の生活や歴史ある文化、芸術の赤坂に触れることはできませんでした。今後は、港区赤坂・青山地区の街づくりに様々な立場を踏まえた関りを持つことによって、地域に貢献していきたいと思います。最後になりますが、港区赤坂地区総合支所協働推進課、座長、事務局の皆様には感謝申し上げます。有難うございました。

竹田 眞里

南青山の近隣の住宅がビルに建て替わり、何が入るか心待ちにしていたら、不景気の中にも関わらず、家賃が高過ぎ1年近く空室のままで、やっと入っても店舗では無く、倉庫に使われ、実に勿体無い事になっています。

数年前ある方から、青南小学校の近くの空き地にどんな施設が出来たら良いと聞かれベビーシッタールームはどうですかと答えた所、すごい速さで二階建ての、託児所を作って頂きました。うちも利用したくて予約に行きましたら、即一杯になり、ウエイティングリストにも無理ですと断られてしまいました。どうせなら4階建てにして頂けたら良かったなあと思いました。民間のビルは空室だけで、どちらも問題が有るように思います。

日本は世界中の良い所を取り入れ、改良するのが得意として来ました。まだ立ち遅れているのは、タバコのもたらす害が肺癌や心臓病の原因になり、寿命を縮めている事の重大さはすでに50年前には医学会が警鐘していました。欧米のように小、中学生から教え込む事が遅れて居るのがとても残念に思います。毎年1時間だけでも実際の肺癌患者を連れて来て単発クラスが有ればと思っています。

最近治安が悪くなり、防犯カメラが有っても、映らない死角を選んで家に、侵入したり、ターゲットの家に前もって盗聴器を仕掛けて、留守を調べたり、お手伝いさんから、合鍵を入手したり、ガラス戸の鍵を開けさせたりするので、人を使っている家は、室内にも監視カメラを付けなくてなくなっています。安全で平和だった日本に早く戻って欲しいものです。

分科会に参加出来ました事で、日ごろ接する事の無い、意識の高い方々や、熱心に港区に尽くして下さる方々に接する事が出来まして、貴重な体験ができました事を感謝致します。

橘 雅子

地区版計画に携わる機会を通して自分の関心が高い分野だけでなく、他の住民の方々の関心の有る分野や意見に触れることができ、多くの気づきを得ることができました。

私は前回に続いての参加ですが、この間コロナにより大きく社会や生活様式が変化しました。今後は従来とは異なる未来の「まちのありかた」についても考えていく必要があるように思います。前回多く声があがっていた情報発信に関して今回も課題であるとの認識が多く、これから重点的に取り組んでいただき、区民のための施策がより多くの人に届いてほしいと願います。

今回の提言案には私達が毎回意見を出し合ったものがうまく採り入れられていると思いますが、この提言を実現し、検証してフィードバックすることでより住みやすい地区になっていくことを期待しています。事務局の皆さま、参加メンバーの皆さまのおかげで楽しく参加できました。ありがとうございました。

鳥居 静子

時には、よそ者や馬鹿者、若者が世の中を活性化させると言われます。

私は 50 代からの区民ということで、よそ者、馬鹿者と言う二つの資格があると勝手に自負しており、この大好きな赤坂・青山の街をもっともっと、魅力のある住みやすい街にしたいとの思いから、この度、参加いたしました。

今回副座長に初めて女性が選ばれたことや、委員の大半が現役世代と言うこともあって、これまでの赤坂・青山の地区版分科会とは違う印象を強く感じています。

今回初めて参加した女性の委員の方が、感想として「こんなにも区をはじめ住民が街を良くしているのを知り、区民税の支払いに対して抵抗が減りました。」という話をされましたが、このことが今迄の活動の中で一番印象に残りました。とっても嬉しかったです。

区の関係者、委員の皆様、本当にお疲れ様でした。

そして、ありがとうございました。

肥田 ひとみ

先ずは、本分科会の実施にご尽力下さいました赤坂地区総合支所の事務局をはじめ各ご担当の皆様にご心よりお礼を申し上げます。行政が区民の為に様々な企画やお取組みをされている事も沢山知る事が出来ました。

また、会を重ねるごとに、高い意識と深い見識をもったメンバー皆様からは常に新鮮な刺激を受けながら多くを学ばせて頂きました。赤坂に在住して 20 年程ですが、住民としての意識の低さを痛感し反省する事が多かった気がしております。そして、本分科会に参加した事は、私自身が何よりも意識改革をする機会となりました。メンバーの皆様と支所の皆様からは多くの事を考えるきっかけと様々なご教示を頂いた事に感謝しております。この貴重な経験を今後も無駄にする事なく、かがやきながら、にぎわいながら、はぐくみながら、益々豊かなまちになりますよう末長く見守っていきたいと考えています。どうも有難うございました。

藤井 京乃

そこに住み、そこで暮らす市民の立場で、それぞれが住みやすいまちを考える。ずっと住みつづけるために、ひとり、ひとりが、意識をもたなければならないと思う。

分科会に参加し、参加者の意見を伺い、行政だけで何かを進めるのではなく、住民参加による新しいコミュニティの形成を目指す、その入り口にいると感じた。

たとえば、神宮外苑再開発問題。青山・赤坂地域住民に好きな場所を訊くと、「いちよう並木」「神宮外苑」と答える方が多いという。みどりがゆたかである、ゆったりと過ごせる、四季が感じられる、というのがおもな理由だ。現在、再開発の問題が議論されているが、住民は計画の全容を知らされないまま、工事は進もうとしている。

地域に培われた環境が大きく変化する、このような大規模開発の場合、自治体と事業者による事前協議時より住民が参加し、計画を進める。専門的な知識が必要な場合は、自治体が住民のアドバイザーを依頼する。といった仕組みがあってもよいと思う。

次世代に快適なまちを引き継ぐために、環境問題をコミュニティの人々と共有し、住民主導のまちづくりを提案するべきです。

この提案が実現することを願っている。

森田 璃椰

赤坂に住んでながらも街の事を良く知ってるわけでは無かったので、分科会に参加する事により赤坂の街をより知る良いきっかけになりました。

今回のテーマである、かがやくまちとはぐくむまちで上げた意見がどれだけ反映されるか分かりませんが、これからも地域住民の方がより住みやすく事業がしやすい街づくりが出来れば嬉しいです。

港区基本計画・赤坂地区版計画書策定に向けた提言書

令和5年3月

赤坂・青山地区タウンミーティング
赤坂地区版計画推進分科会

